

NPO法人

# 全日本語りネットワーク

## ニュース

〒185-0021 東京都国分寺市南町 2-18-3 国分寺マンションB-03A

(Fax) 0237-67-7001 (振替) 00130 - 2 - 114808

(E-mail) [welcome@japankatarinet.jp](mailto:welcome@japankatarinet.jp)

(HP) <http://japankatarinet.jp/>

2023. 1. 29 発行

## これからの「語りの祭り」の方向性

NPO法人全日本語りネットワーク理事長 井上幸弘

「第15回全日本語りの祭り in 加賀」は無事に終わりました。コロナ禍が収束しないなか、全国から200人もの方が参加し、祭り期間中発熱した人もなく終了することができました。まさしく無事に終わったというのが正直な感想です。

那須の大会から4年の月日がたち、祭りの案内を配り、受付開始の日を待ちました。果たして参加してくれるのだろうか。それは危惧に終わりました。6月1日から会員の方の受付を開始し、数日のうちに100人を超える申し込みがありました。その後会員外からの受付も開始し、キャンセルを考えて、結局221人を受け入れることとなりました。大会の準備が進むにつれてまたコロナ感染の拡大がみられ、どれだけキャンセルがでるか不安になりました。しかし、ご自分の身体の不具合や、家族の都合でのキャンセルはあっても、コロナが心配だから参加しないという方は、ほとんどいませんでした。一割の方のキャンセルがあり、ちょうど200人で祭りを迎えることになりました。4年ぶりの祭りにどうしても参加したい、という熱い思いがコロナ禍への不安を吹き飛ばしたのでしょうか。10月2日の全体会から始まり、10月4日の閉会まであっという間に終わったという気がします。

今回の祭りは「語り」と「紙芝居」のコラボレーション。これまでの祭りで「紙芝居」は一つの分科会なので、どうしても語りをしている人の足が遠のきました。それが今回は「文学を語る」・「古典を語る」と「お国言葉で語る3」を除いて全ての分科会で紙芝居が演じられました。会場の人数制限のため、希望していた分科会に入れず残念な思いをしたが、参加した分科会が楽しかったとのアンケートもありました。紙芝居をしている方から、はじめて「語り」をゆっくりと聞くことができたとの感想もお聞きしました。また語りを行っている方も「紙芝居」の自由さに刺激を受けました。

どの分科会も充実していたので、分科会から分科会へ移動する方も本当に少なく、腰を落ち着けて「語る喜びと聞く楽しみ」を十分に味わうことができました。また、今回の初めての試みとしての参加者による自主企画。2つか3つ集まれば良いと考えておりましたが、時間と場所を調整しないとだめなほど申し込みがありました。

これまで参加者とともにつくる語りの祭りを行おうと考えてはありましたが、なかなか思うようにはいかず、どうしてもネットワークで考えた枠の中で行って来ました。それも大事なことなのですが、今回自分たちでこんなことをしたい、と思っている参加者が多いことに気づかされました。

これからの語りの祭りの方向性を示してくれたのが、加賀大会であったといえます。一つの分科会のなかで語りと紙芝居が行われます。そして「お国言葉で語る」分科会もあるのですが、テーマに沿って方言の語りもそれぞれの分科会の中で語られる。さらに自由に参加し語る夜語りとともに、参加者自身による語りの場が準備される。そんな語りの祭りのイメージがわいてきます。

今回「語り」と「紙芝居」のコラボレーションによって生み出されたお互いの交流をさらに深め、語りの文化を豊かにしていくのがこれからの語りの祭りになるのではないかな。次の語りの祭りをみなさんと盛り上げていきましょう。

